

地域に根付く駅の風景

文学部社会学科

一回生 池田

1 背景・問題意識

私は、幼稚園までは現在住んでいる大阪市福島区に住んでいたが、小学校から高校までは高知県に住んでいた。大阪と高知は異なるところがたくさんあるのだが、その違いがよく表れている場所のひとつが『駅』だと思う。高知は路線も JR 一本しかないし、一番大きな駅でも、大阪の利用者の少ない小さな駅と同じくらいの規模である。このように、駅は都市や場所によって違いがあるが、大阪の比較的近い場所に位置する駅でも大きな違いはあるのかを、自分がよく利用している駅を中心に調べてみたいと思う。

2 調査の目的

私は普段、何気なく駅を利用しているが、各駅によって周りの店や建物に違いはあるのか。またその店や建物の違いは、駅のある場所が原因となっているのか。自分が普段よく利用する阪神野田駅と、その周辺にある、JR 野田駅、JR 西九条駅を比較して、駅の周辺の状況、店、建物などの違いを調べる。(問題発見型)

3 調査対象

- ・ 阪神野田駅周辺 (大阪市福島区海老江 1 丁目)
- ・ JR 環状線野田駅周辺 (大阪市福島区野田 3 丁目)
- ・ JR 環状線西九条周辺 (大阪市此花区西九条 3 丁目)

4 調査概要

- ・ 調査時期 10月18日 13時~15時、10月21日 13時~13時半、
11月1日 13時半~15時
- ・ 調査方法 駅周辺の店、建物などを携帯のカメラで撮影する。

5 調査結果

今回調べたそれぞれの駅で、2つの違いについて見ていった。

1) 高架下の様子

(a) 阪神野田駅



図 1 (10月 21 日撮影)



図 2 (10月 21 日撮影)



図 3 (10月 21 日撮影)



図 4 (10月 21 日撮影)



図 5 (10月 21 日撮影)



図 6 (10月 21 日撮影)



図 7 (10月 21 日撮影)



図 8 (10月 21 日撮影)

まず駅構内が『a P L a』（アプラ）という施設（図 1）になっていて、真ん中にはモニターがあったりイベント広場もあって、そこで出店をしている人もいた（図 2）。施設内にはコンビニや居酒屋、飲食店が 10 軒ほどある。店の間に通路があり、そこに手すりがあってバリアフリーになっているところにも新しさを感じた（図 3）。飲食店は他の 2 つの駅に比べるととても少なく、駅の施設内半径 50 メートル以内ほどにしかなかった（図 4）。駅の構内を離れると、高架下は自転車置き場や駐車場、会社などになっていた（図 5,6,7,8）。自転車置き場や駐車場も高架の下なのでとても暗く、古い感じだった。駅の施設内にある飲食店には新しさがあり、外観にも華やかさがあった。

(b) JR 野田駅



図 9 (10月18日撮影)



図 10 (10月18日撮影)



図 11 (10月18日撮影)



図 12 (10月18日撮影)



図 13 (10月18日撮影)

店が連なっていて、特に居酒屋やラーメン屋などの食べ物屋が多い(図9,10)。また正面から見て左側(図11)は、古いままで白い壁にひび割れや黒い汚れが目立ち、昔からある雰囲気のお店が並んでいたが、右側(図12)には新しいコンビニやパン屋、居酒屋などがあり、壁も新しくなっており色も茶色に変わっていて、同じ通りとは思えないほど全く違う様子だった(図13)。

(c) JR 西九条駅



図 14 (10月18日撮影)



図 15 (10月18日撮影)

JR 野田駅と同じく、店が連なっており、食べ物屋が多い(図14)。しかし、JR 野田駅は、高架に沿って一本線にずっと商店が連なっていたが、JR 西九条の方は、裏口は JR 野田駅と同じように高架に沿って商店が連なっていたが、正面の方は高架に沿ってではなく、高

架を横切る形で飲食店が並んでいた(図15)。

2) 駅の表通りと裏通り

(a) 阪神野田駅



図 16 (10月21日撮影)



図 17 (10月21日撮影)



図 18 (10月21日撮影)



図 19 (11月1日撮影)



図 20 (11月1日撮影)

駅の正面に出ると広場があり、緑も多く広々とした雰囲気がある(図16)。一方の裏口は、バス乗り場になっている(図17)。バス乗り場の上は『WISTE』という大型店と阪神野田駅を繋ぐ通路があるため、光があまり入らず暗かった。バスを待つ人がぼつぼつといるだけで、表通りに比べると寂しい雰囲気だった(図18)。また、高架に沿って東側に歩いてい

くと、高架を隔てて表通りには高いビルや建物が並んでいて民家は全く見られなかったが（図 19）反対側の一部には民家が密接して並んでいるところがあり、表通りと全く違った風景が広がっていた（図 20）。裏通りにもビルなどは少ないが商店はたくさん並んでいる。

(b) JR 野田駅



図 21 (11月1日撮影)



図 22 (11月1日撮影)



図 23 (11月1日撮影)



図 24 (11月1日撮影)



図 25 (10月18日撮影)



図 26 (11月1日撮影)

表通りも裏通りもあまり高くて大きなビルや建物が見当たらない(図 21)。裏通りは、商店街以外のところはほとんど民家で、マンションや新しい家は少なく、昔風の木製の家も多い(図 22)。しかし、駅を遠ざかって西九条の方向に歩いていくと、新しい家やマンションが立ち並び、古い民家は見当たらなかった(図 23)。また、商店街を抜けるとほとんど人がなくなった。表通りは、民家はあまり見当たらないが古い建物が多く(図 24)。駅を離れると人も少なくなった。

商店街の歩道を比べてみると、表通りの歩道(図 25)は高架の下にあり、上からの光が遮られるのですこし暗かった。歩道自体は広いが、柱が立っていて自転車もたくさん停めてあるので通行するには少し狭かった。裏通りは、光は入るが通路自体は狭い。その上、表通りと同じく自転車もたくさん停めてあったので表通りよりも狭くなっていた(図 26)。

(c) JR 西九条駅



図 27 (10月18日撮影)



図 28 (10月18日撮影)



図 29 (10月18日撮影)

正面には飲食街がいくつかあったが、高架の下にあるので昼間なのにとっても暗く、人も

少ないので近寄りがたくて不気味な感じがした(図 27)。その飲食街には、昔からあるような古い喫茶店、居酒屋などがあった。一方、裏口の商店街は、人は少ないが正面の飲食街よりも親しみやすく、ゆっくりと時間が流れているような雰囲気が広がっていた(図 28)。裏口は、居酒屋やラーメン屋、小さなスーパーなどがあった。駅の表側と裏側で全く雰囲気が違っていった。JR 野田駅と同じく、大きな建物は少なかった(図 29)。

6 比較



図 30 (10月21日撮影)



図 31 (10月18日撮影)



図 32 (10月18日撮影)



図 33 (11月1日撮影)

3つの駅を比較してみると、阪神野田駅は、駅周辺を離れても人通りにあまり差はなく、その地域全体が賑わっているというような雰囲気があり、JR野田駅は高架沿いに商店が並んでいるので、賑わいが高架に沿って直線的に広がっている感じだった。JR西九条駅は、表通りも裏通りも高架の向かいの通りに通路がいくつもあって、そこを行くとまた商店が連なっているという感じになっていて、駅を中心に円状に賑わいが広がっている様子だった。

もうひとつ、阪神野田駅と、JR 野田駅、JR 西九条駅との違いを感じたのは、阪神野田駅の駅構内の施設は『a P L a』（図 30）という名前がついていて、新しさがありおしゃれな印象だが、JR 野田駅の飲食街は『OK 1 2 番街』（図 31）、JR 西九条駅の飲食街には『1 9 番飲食街』（図 32）や『OK 1 8 番街』（図 33）という名前になっており、昔からあって馴染み深いという印象を受ける。このように施設や通りの名前からも、阪神野田駅とJR 野田駅、JR 西九条駅との違いが見受けられる。

7 分析

駅の雰囲気は、JR 野田駅と JR 西九条駅ではそれほど差は感じなかったが、阪神野田駅はこの二つの駅と全く違った雰囲気に思えた。阪神野田駅は明治 38 年、JR 野田駅、JR 西九条駅は共に明治 31 年に開業されていて、駅の歴史を見るとそれほど差はない。それなのになぜこんなに雰囲気の違いを感じたのかを考えてみると、それは沿線の違いももちろんあると思うが、平成 9 年の 6 月に出来た阪神野田駅構内の施設『a P L a』や、その地域の人々が多く利用する近くの大型店舗が新しくなったことが一番影響しているように思う。これは、阪神野田駅の近くにある JR 東西線の海老江駅が平成 9 年に開業しているので、それに伴って造られたのではないかと思う。阪神野田駅は、駅自体は古くても、その周辺の店や施設が新しくなったり、近くに新しい駅が開通されたことによって、阪神野田駅自体にも新しさが出てきていたように感じる。JR 野田駅は、駅の正面のところには真新しいコンビニやパン屋があったが、新しさはその一部分にしかなく、駅全体に新しさが広がっている阪神野田駅とは大きく異なり、全体的には昔からそこにあるという雰囲気になっていた。

また、JR 野田駅の近くには地下鉄千日前線玉川駅、JR 西九条駅の近くには阪神西九条駅と 1 つずつしかないのに対し、阪神野田駅の周辺には JR 東西線海老江駅、地下鉄千日前線野田阪神駅と駅が 3 つも密集しているので、それだけ利用者も多く、駅周辺には大型店舗や大きな会社のビルもあるのだと思った。

8 結論

全体的に見ると、阪神野田駅は新しさがあり、JR 野田駅、JR 西九条駅は昔からそこにあるというような古さを感じる印象だった。しかし、駅の周辺を細かく見ていくと、阪神野田駅と JR 西九条駅は、表通りと裏通りで雰囲気が異なっていたが、JR 野田駅は、あまり違いはなかった。このような、全体から見た印象と細かく見ていったときの印象の違いがわかったのは、新たな発見だった。

9 評価

今回の調査では反省すべき点がたくさんあった。まず企画書を書く段階から、テーマがなかなか決まらず焦って書いたので、曖昧な内容になってしまっていた。また、調査をす

るときも、下調べをしっかりとしていなかったので、いざ調査に入ってからわからないことがいろいろ出てきて困ることが多かった。今後、調査するときにはすべての面でもっと余裕を持って行動しなければいけないと思った。